

調査結果の概要と分析、改善策について

丹波市立山南中学校

【結果概要・分析にあたって】

過日、4月17日（木）に実施された本年度の全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。本校は、国語・数学・理科ともに全国と同程度でしたが、国語においては正答率が全国を上回る問題が、数学・理科においては下回る問題が複数ありました。また、生徒質問紙調査からは、日頃の教育活動を通じて自己有用感等が高まり、自ら学ぼうとする姿勢が身についてきている様子が伺えました。

しかし、本調査で測ることができるのは学力等の一部でしかありません。また、比較的規模の小さい本校では、生徒1人の正誤・回答によって結果が大きく変わってきます。したがって、正答率等の数値のみにとられるのではなく、生徒の学力の傾向を適切にとらえ、苦手な部分を補い、得意な部分をさらに伸ばす教育活動を引き続きすすめていくため、この調査結果を活用したいと考えています。

【調査概要】

- 実施日 令和7年4月17日（木）
- 実施教科 国語、数学、理科（理科はCBT※で実施）
- 対象学年 第3学年



【質問紙調査から】

<挑戦心・自己有用感・居場所づくり>

質問事項	肯定的回答	全国との差
将来の夢や目標を持っていますか	65.7%	-1.8p
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか	100.0%	+4.1p
学校に行くのは楽しいと思いますか	94.0%	+7.9p
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.5%	-1.1p

○「学校に行くのが楽しい」と感じる生徒の割合が増加しています。生徒の主体的な活動を通じて、自己肯定感・自己有用感が高まっていると考えられます。また引き続き、いじめを生まない学校風土づくりに取り組みます。

<学習習慣>

質問事項	1時間以上 2時間以上	全国との差
平日にどのくらい勉強していますか	62.6% 31.3%	+1.0p +0.5p
休日にどのくらい勉強していますか	47.9% 21.0%	-10.0p -11.5p

○平日の学習時間が増加しています。しかし休日の学習時間は昨年度とほぼ同程度で、全国を下回っています。学習時間の確保とともにPM/TMの取組により、自分自身の課題に応じて計画的に学習する姿勢を育みたいと考えます。

<学習に対する姿勢・学習内容の活用>

質問事項	肯定的回答	全国との差
学習した内容について分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげようとしていますか	82.1%	+8.7p
授業で学んだことをほかの学習や実生活で生かしていますか	79.1%	+4.3p

○2つの質問ともに昨年度、一昨年度と比較し、大きく回答率が上がっています。日頃の授業改善により、生徒自身が学習の意義や目標を理解し、学んだことを活用しようとする姿勢を身につけています。

<学習課題に取り組む姿勢>

質問事項	肯定的回答	全国との差
今回の調査問題には解答を文章で書く問題（国）、言葉や式で説明する問題（数）がありましたが、最後まで解答しようとしたか。	国 68.7% 数 41.8%	+3.4p -13.1p

○国、数で大きく結果の異なる質問です。教科にかかわらず、粘り強く学習に取り組む姿勢を育みたいと考えます。

【各教科の結果から】

※本文中の「p」：本校 76.2% 全国 72.5% のとき 差は「+3.7p」と表記
※国研：国立教育政策研究所 URL: <https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

<国語> ※問題文、解答は国研 HP（上記）を参照

（問題3二） 全国との差：+7.1p
問題の概要：「兄」と「弟」が物語に中でどのような性格の人物として描かれているかを書く
正答の条件：次の条件を満たして解答している
①兄の欄に「気が長い」のように解答
②弟の欄に「気が短い」のように解答
上の条件①②を満たして解答している

すべての問題の中で最も正答率が高く、無解答以外の全員が正解しています。文章全体と部分の関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を適切に捉えることができています。

（問題3四） 全国との差：+2.3p
問題の概要：「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそのように考えた理由を書く
正答の条件：どのような効果があるか、展開を踏まえ、物語の内容を適切にとらえ書いている

正答率は全国をやや上回っていますが、すべての問題の中で最も正答率が低く、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることに課題があると考えられます。同趣旨の問題は、数学においても例年課題となっています。

<数学> ※問題文、解答は国研 HP（上記）を参照

（問題6(1)） 全国との差：+5.9p
問題の概要：連続する二つの3の倍数の和が9の倍数になるとは限らないことの説明を完成するため、例をあげその和を求める
正答の条件：9の倍数にならない例をあげている

条件に合うように説明する問題ですが、反例を示して説明することは比較的容易で、論理的に物事を考える際の足掛かりになります。具体から抽象への過程を踏まえ、数学的な表現を用いて説明する活動に発展させることが大切です。授業においては、この点を踏まえて指導することを心がけています。

（問題9(2)） 全国との差：-20.9p
問題：平行四辺形 ABCD の辺 CB, AD を延長した直線上に BE=DF となる点 E, F をとっても、四角形 AECF は平行四辺形となることを証明する
正答：省略 詳細は HP 参照

すべての問題の中で最も正答率が低く、無解答率（10.4%）が高くなっています。数学的な表現を用いて事柄が成り立つ理由を説明することは例年課題となっており、その解決に向けて数学的な表現を用いて思考させたり説明させたりする活動をすすめていますが、さらなる充実が求められます。

<理科> ※問題文、解答は国研 HP（上記）を参照

（問題4(2)） 全国との差：+4.2p
問題の概要：「一酸化炭素は空気より軽い」という性質をもとに適切な避難行動を選択する
正答：低い姿勢で避難すると解答しているもの

火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身についているかをみる問題です。全国をやや上回り、無解答率は0%です。
基本的な知識の定着に向けては、日頃から丁寧に指導しており、その成果が表れていると考えられます。

（問題1(2)） 全国との差：-13.4p
問題の概要：「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する
正答の条件：省略 詳細は HP 参照

身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる問題です。すべての問題の中で最も全国との差が大きく、無解答率は高くなっています。課題を解決しようとする姿勢を持つことに加え、複数のことから（水道水と精製水）すべてに着目して考えることが求められます。

【今後の取組（指導改善のポイント等）】

<各教科及び教育活動全般を通して>

- 国語・数学・理科の課題や成果をすべての教職員で共有し、全教科の授業改善を図ります。特に成果が見られた教科の指導方法については、各教科の特性を生かしながら各教科の授業づくりに生かします。
- 例年課題となっている「書くこと」については、すべての教科で「自分の考えを整理する」「根拠を明確にする」「目的や状況に応じて適切な表現を用いる」等を踏まえた授業づくりに努めます。
- 生徒一人ひとりが自分自身の課題と向き合い、その解決に向けて「いつ」「何を」「どのくらい」学習する（取り組む）のかを決め、主体的・計画的に学習等をすすめる力の育成に努めます。
- 学校行事や日常の学校生活の中で、生徒が主体的に活動する場面を意図的に設定し、自己肯定感、自己有用感の醸成に取り組むとともに、何事も諦めずねばり強く取り組む力の育成に努めます。